

福岡教区今年度の目標…「信仰の伝達」

小教区今年度のテーマ…「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」

命の尊厳と平和



主任司祭 遠山満

吹石一恵さんと言う女優さんがいらっしゃいます。彼女が以前テレビのトーク番組に出ていた時、御自身の幼い頃の思い出を話していました。ある日、御両親が彼女の為に、新しい綺麗なエナメルの靴を買ってくれた時、彼女は、その新しい靴を履いて、道端に落ちていた犬のウンチを精一杯踏んづけたと言っていました。司会者が驚いて、「何故、そんな事をしたのですか」と問いかけましたら、彼女は、「その綺麗な靴を無性に汚したい。そんな衝動に駆られたのです」と笑いながら答えていました。私たちは、彼女のこのような行動を愚行と笑うかもしれませんが、しかし、私たちの中にも、このような衝動があるのです。

聖書の中に、私たち人間は神の似姿として創られていると書かれています。もし私たちが、私たちに似せて創られている物、例えば私たちの像とか絵とか、あるいは写真とかに唾をかけられたとしたら、私たちはどんな風に反応するのでしょうか。きっと怒るに違いありません。その物が侮辱されるのは、私たち自身への侮辱でもあるからです。ですから、私たちが人を侮辱する時、それは単にその人への侮辱に留まらず、神様への侮辱になります。ここに人の命の尊厳の根拠があります。聖書の中には、私たちの体は、「聖霊の神殿」とも書かれています。私たちは、他の被造物とは異なる者、聖なるものとして創られました。私たちは、日頃の生活の中でストレスを溜めてしまう時、私たちの内で攻撃性が高まり、聖なるものを攻撃したい衝動に駆られることがあるのではないかと思います。それが他者に向かう時、苛めになったり、自分に向かう時、自傷行為になったりするのではないかと思います。さらにこれが大きくなっていけば、戦争に発展するのではないかと思います。

先日、日曜学校の子どもたちと大刀洗の平和記念館に行ってきました。そこで学んだことは、戦争が全てを奪うということです。私たちの大切なもの、私たちの家族、財産、私たちの命までも奪います。私たちは、日常生活の中で、私たちの持ち物、例えば文房具とかの小さなものでも他の人から奪われたとしたら怒ってしまい、いつまでも覚えている事があります。ましてや、命を奪われてこの世を旅立たねばならなかった人々の悔しい思いは、いかにかりかと思えます。その人たちの中には、この世で犯した罪は大きくなかったかもしれないけれど、自分達の命を奪った人たちを赦すことができなくて、天国に入ることが出来ないでいる人たちもいらっしゃるかもしれません。終戦記念日を迎えるこの8月、私たちは、その人たちの為に祈りましょう。その人たちが、命を奪った人たちの事を赦すことができますように。そして、今も戦争が続いている国々に神様が平和の恵みを下さるように祈りましょう。



一口メモ

8月28日 聖アウグスチヌス(354年-430年)
司教教会博士

8月27日 聖モニカ(332年-387年)それぞれの
の記念日です。

アウグスチノは、354年11月13日北アフリカのダガステで、ローマ官吏の父パトリチウスと敬虔なカトリック信者である母モニカの間にも生まれた。アウグスチノは成績が優秀で、カルタゴの大学に留学し、真理探求に情熱を燃やした。しかし、マニ教に傾倒し、ある女性との間に子どもをもうけ、父となったのだが、結婚は許されず、彼の内面に葛藤を生んだ。そして383年にイタリアに行き、ミラノの司教アンブロジウスと出会い、キリスト教の洗礼を受けた。彼の決定的な回心のきっかけは、「Tolle lege! Tolle lege! (取って読め! 取って読め!)」の声を聞き、聖書(ロマ13:13-14)を読んだことといわれている。なお、彼の回心には、母モニカの祈りと支えがあったといわれているが、後に、彼の父も妻モニカを通して神の招きに与っている。母の死後、彼は修道生活をしようと故郷に帰り、祈りと研究の生活を始めた。391年に司祭に、396年にはヒッポの司教になり、以来、説教や著作活動でキリスト教の真理を広め、異端と戦った。彼のキリスト教への魂の遍歴を記した『告白』と『神の国』は、不朽の名著として知られ現在も読まれている。

「私の魂は、あなたのうちに憩うまで、安らぎを得ません」『告白』(1.1.1)

聖アウグスチノの作った会則に基づいて修道生活を送っていたいくつかの共同体グループが、合同して1244年に聖アウグスチノ修道会が誕生した。

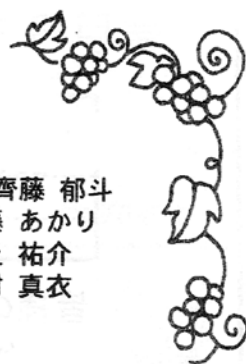
アウグスチノ会からは宗教改革の火蓋を切ったマルティン・ルターや生物学者で遺伝の法則を発見したグレゴール・ヨハン・メンデルそして、また、ヴィラノヴァの聖トマスやカシアの聖リタなどの聖人を輩出している。また、日本には1584年に初のアウグスチノ会の宣教師が上陸し、迫害時代には第三会員の多くが殉教している。金鍔次兵衛神父は、2008年11月24日に長崎で福者に列せられている。

カトリック生活、1997、10月号「聖アウグスチノ」より一部抜粋



信徒の異動・秘跡

(2013年7月～2014年7月)



○ 転入

- 2013.8 ヨセフ 市瀬 雅博 (23組)
市瀬 洋子
8 ミカエル 濱崎 歩 (23組)
2014.1 セシリア 堤 澄香 (2組)
4 マリア 佐藤 寛子 (23組)
5 ヨセフ 竹谷 茂 (3組)
竹谷 アサノ

○ 転出

- 2013.9 トマス 深堀 雄蔵
アグネス 亜麻子
マリア 里紗
セシリア 杏珠
(大名町教会へ)
2014.4 アンセルモ 下村真哉
(長崎教区八幡町教会へ)
4 ペトロ 相川 竜也
(長崎教区浅子教会へ)

○ 洗礼

- 2013.7.14 ベルベトウ 松本 裕美 (22組)
12.15 マリア・インマクラタ 中牟田陽向 (20組)
2014.2.2 マリア 藤原 詩 (17組)
2014.4.27 ライオン 八尋 宇碧 (23組)
4.27 レジタ 八尋 瑛史子 (23組)
4.27 ベルナデッタ 中村 公美 (17組)
2014.6.29 ベルナデッタ 齊 雫 (1組)

○ 洗礼・初聖体

- 2014.4.19 ベルナデッタ 森 美樹 (4組)
4.19 クララ 森 拓夢 (4組)
4.27 クララ 笹栗 ゆり子 (10組)
4.27 ファウスティナ 長池 涼子 (2組)
4.27 マリア 長池 喜子 (2組)
4.27 リタ 八尋 奈子多 (23組)

○ 洗礼・初聖体・堅信

- 2014.3.26 マリア 吉塚 安子 (9組)
4.19 フランシスコ・マリア・コルベ
古川 拓磨 (14組)
4.19 フランシスカ 堀之内紀美子 (12組)
4.19 ワツシリー 中島 興吾 (10組)
4.19 ジョセフィーナ 中島 芳子 (10組)

○ 初聖体

- 2014.4.27 アルフレッド 齊藤 郁斗
4.27 クララ 佐藤 あかり
4.27 ペトロ 田上 祐介
4.27 マリア 藤村 真衣

○ 堅信

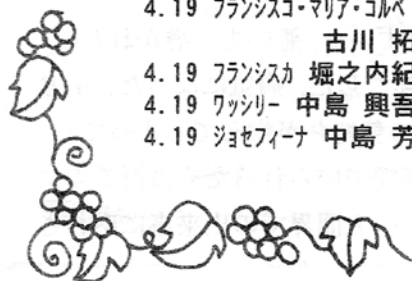
- 2013.8.25
ペトロ 田中 大海
フランシスコ・ザビエル 古曳 正哉
マリー・テレーズ・モロ 古川 舞乃
テレジア 笹栗 はな恵
セシリア 辻部 珠子
ミカエル 浅田 峻多
ユリウス 竹島 竜真
ルドビコ・スチル 品川 竜乗
アンナ 染野 天来
洗礼者ヨハネ 藤村 一成
小さい花のテレジア 廣田 佳菜
ミカエル 黒崎 勝喜
ミカエル 黒崎 京介
マリア・エリザベト 市瀬 由佳
テレジア 橋口 啓子
クララ 田中 麗菜
小さな花のテレジア 山口 愛
ベルナデッタ 小林 倫香

○ 結婚

- 2013.9.16 フランシスコ 野口 賢志 (23組)
利奈
2013.10.13 ペドロ 大森 拓也 (東京へ)
由夏
2013.10.19 ミカエル 濱崎 歩 (20組)
香奈
2014.1.18 洗礼者ヨハネ 中嶋 一弘 (2組)
愛子
2014.3.2 アンセルモ 下村 真哉 (長崎へ)
加奈恵
2014.7.20 田中 俊二郎
マリア 寛子 (23組)

○ 帰天

- 2013.11.14 マリア 森山 ツギ (6組)
2013.12.14 モニカ 高田 ナヲ (20組)
2014.4.25 マリア 小嶋 絹子 (10組)
2014.7.7 マリア 吉塚 安子 (9組)



編集後記

先日、ヒヤッとすることがあった。車を脇から車道へ出ようと発進させたところ、なんと車がバックしたのだ！！すぐに軽く踏んでいたアクセルから足を外し、そっとブレーキを踏んだ。後ろにはアルファロメオの高級外車が駐車していた。ギアをバックに操作したまま前進させようとしたわけだが、後ろと距離があっただけでほんとうに助かった。神様から助けられたと思った。ありがたかった。

しかし、このように良い方へ導かれた時は、感謝しやすいが、悪い方へ導かれた時、素直にお導きに感謝できるか？とふと考えた。事故を起こした、病気になった、子どもが親より先に亡くなったなど経験した場合は、自分の気持ちが病んでしまって、神様に感謝など言えないのではないかと。それ故、常に平安でいられるために祈るのだと思う。自分の信仰を祈りとともにより強めていきたい。人間界での出来事に惑わされないために。(J・N)